

MS-1

PAH 治療における ET 経路の役割 ～他経路の薬剤との関係を含めて～

○中島 康夫

グラクソ・スミスクライン株式会社

エンドセリン (ET) は 1988 年に日本から世界で初めて発表されて以来、さまざまな領域で研究が進められ、現在では ET 受容体拮抗薬 (ERA) が肺動脈性肺高血圧症 (PAH) 治療に使われている。それまで国内の PAH 治療においては PGI₂ 系の薬剤が発売されていたものの、ERA が開発され、その後ホスホジエステラーゼ 5 阻害薬 (PDE5i) などの一酸化窒素 (NO) 経路に作用する PAH 治療薬の開発が進み、現在はこれら 3 経路に作用する薬剤の併用療法による、血行動態の改善を目標とした治療が進められている。薬剤が開発されるとともに、その薬剤の使い方についても様々な試行錯誤が行われてきた。その結果、最近では初期併用療法が主体となってきている。

本セミナーでは、ET の歴史から PAH に対する薬物治療の変化などを振り返り、最新のエビデンスや現在実施されている試験などについて紹介する。